

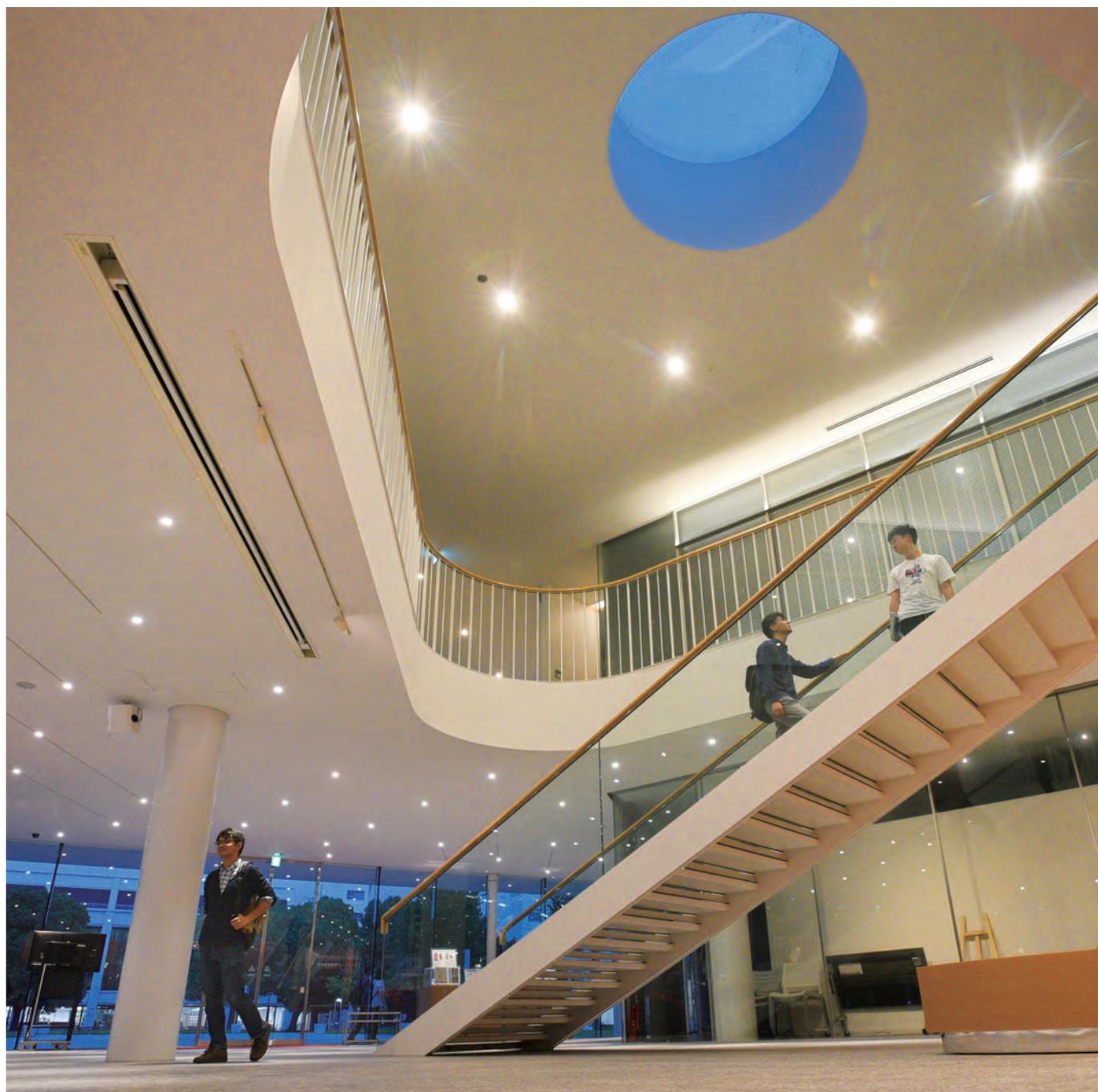
平成30年度「私立大学研究ブランディング事業」認定

全国のモデルとなる 先進高齢者支援システムの開発と 地域社会への展開

〈特集〉

本学の学生サポート／研究室訪問

キャンパス情報／学科TOPICS／Office information



全国のモデルとなる 先進高齢者支援システムの開発と 地域社会への展開

文部科学省による「平成30年度私立大学研究ブランディング事業」に神奈川工科大学の「神奈川県先進工科教育研究拠点：全国のモデルとなる先進高齢者支援システムの開発と地域社会への展開」が採択されました(タイプA:地域貢献、研究期間:5年間<但し文科省支援期間3年間>)。同事業は学長によるリーダーシップのもと、全学的体制で独自色のある研究を推進して成果を発信し、大学の将来ビジョン達成につなげる取り組みです。その概要について、同事業本部長を務める小宮一三学長に話を伺いました。

高齢者の「健康」「安心」「生きがい」を包括的に支援するプラットフォームを構築

「本学の建学の理念は『科学技術立国に資する人材の育成と教育研究をとおして地域社会との連携強化』です。つまり三本柱として、真ん中に教育を置き、そのまわりに研究と地域連携を挙げており、ブランディング事業においても同様です。地域の課題を積極的に研究し、先進的な技術で解決し、地域貢献する。そこに学生も参加し、自ら地域の課題を把握し、問題意識をもって課題に取り組んでもらうことで、よりいっそう実学教育の充実に拍車をかけます。」と小宮学長はブランディング事業と本学の教育効果について説明します。

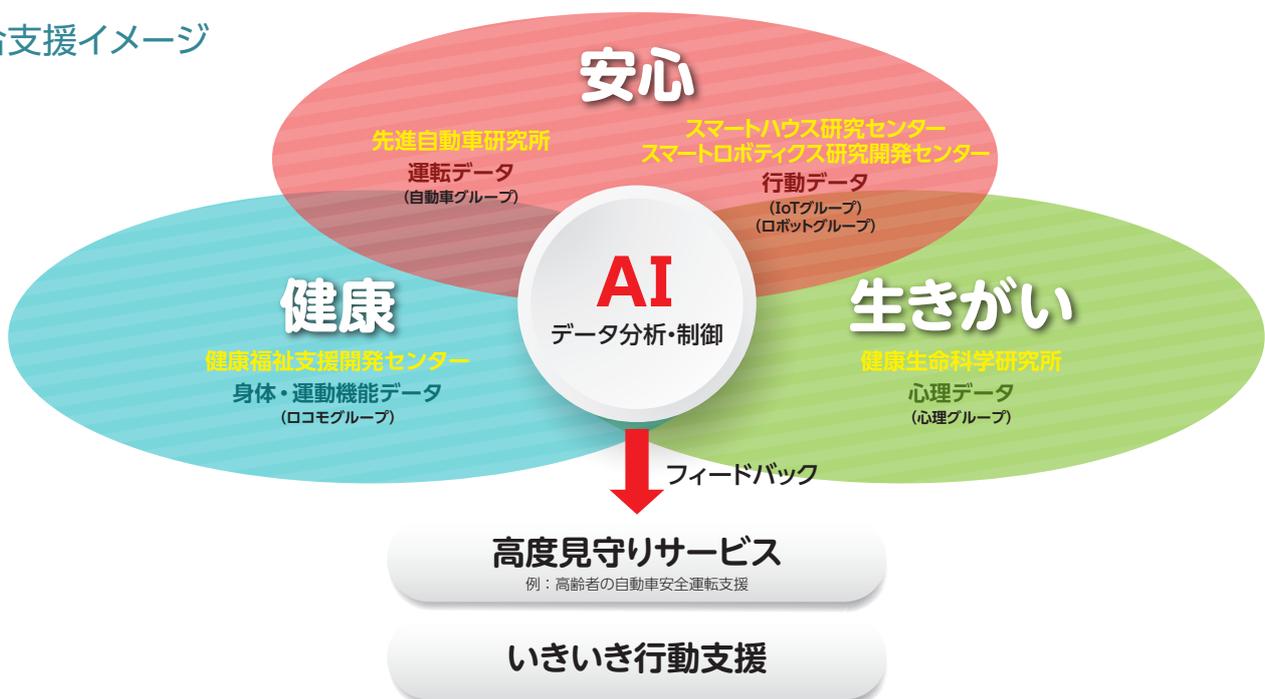
その背景には超高齢社会を迎えた日本の現状があります。特に高齢化率が高い神奈川県では、高齢者対策が急務です。そこで、本学が有する研究所や学部学科の先進的研究と、その中で実践してきた実学教育のもと、高齢者の「健康」「安心」「生きがい」を包括的多面的に支援する「神奈川高齢者支援システム(KSCS: Kanagawa Smart

Care System)」を実現しようというのが、今回採択された事業です。

では、具体的にどのような高齢者支援を目指しているのでしょうか。たとえば、最近話題となっているものに高齢者の運転による事故があります。「高齢者の運転を規制するという話も出てきていますが、自動ブレーキがついた高額な自動車を購入できない人もいれば、過疎地では車が必要な人もいます。高齢者にとって、健康・安全・生きがいのどれか一つでも欠かすことはできません。」と小宮学長。「～してはいけない」と高齢者の行動を縛るよりも、生きがいをもちながら、健康かつ安全に生活できる支援が求められているのです。

「健康面についてはロコモグループが身体・運動機能データを収集し、安全面については自動車グループが運転データを、ロボットグループおよびIoTグループが日常的な行動データを収集します。生きがいについては、心理学グループがロボットとの会話で心理状態を把握します。

統合支援イメージ



これらのデータをAIで分析し、高度見守りサービスとしてフィードバックし、同時に生きがい支援を行っていきます。」(統合支援イメージの図を参照) 統合サービスの具体例としては各グループの開発した要素技術によって収集したデータを横断的に活用し、体調・心理的状态を分析して総合的な状態を把握。例えば「段差で転倒しないか」「運転中に飛び出しに対応できるか」といった危機を回避する能力として判定し、判定結果に応じて生活上のアドバイスや家電製品・自動車等の制御に反映します。

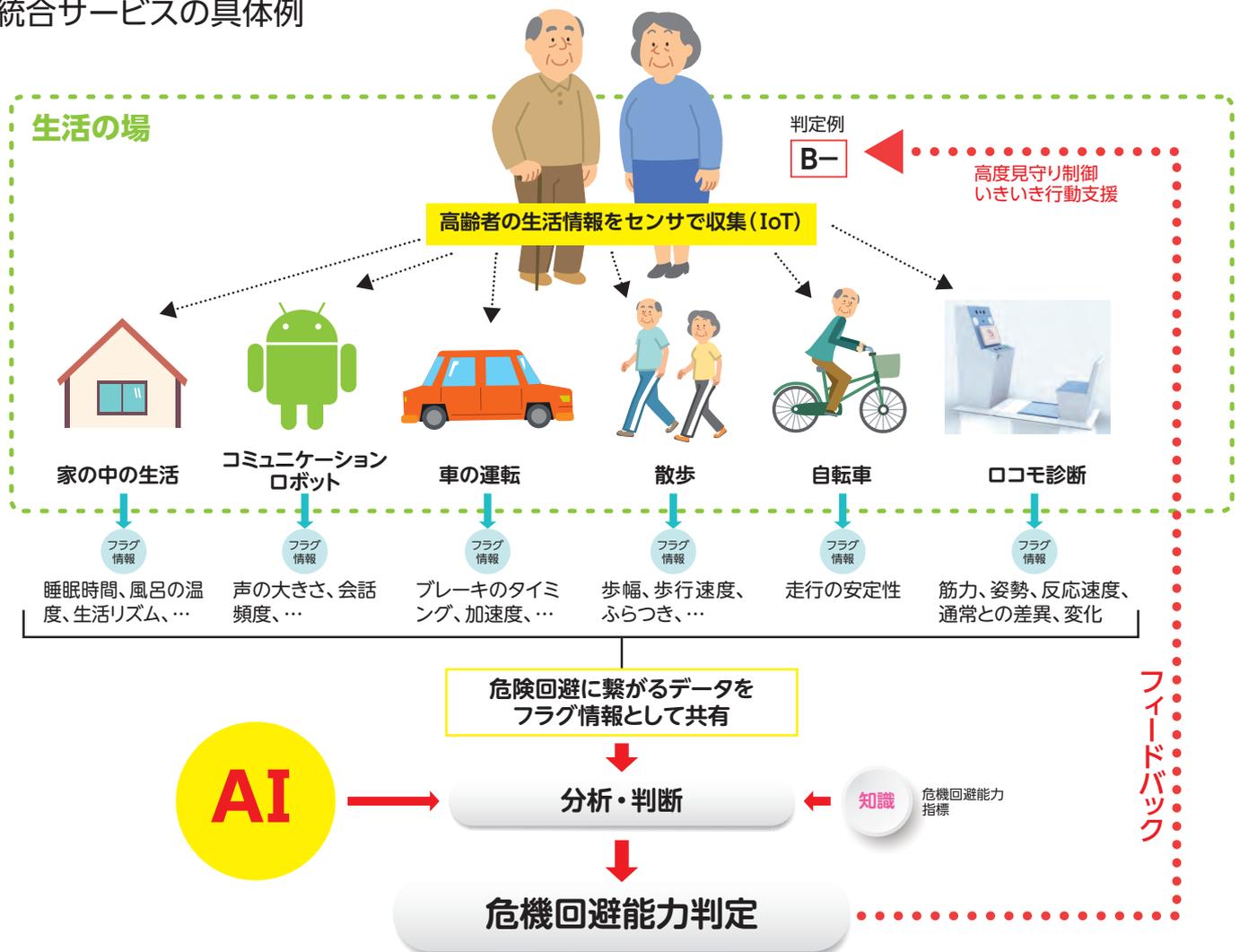
工学系、情報、健康・生命系、看護系と多岐に渡る研究領域が揃い、新たにできた先進AI研究所を含め、先進自動車研究所、健康福祉支援開発センター、スマートハウス研究センター、スマートロボティクス研究開発センターなど17の研究所で行ってきた先端研究を強みに、AI・IoT・ロボットの先進技術を活用したプラットフォーム(KSC-P: Kanagawa Smart Care Platform)を構築し、最終的には社会実装を目指していくそうです。

事業実施の中核に存在するステークホルダーとの連携を強化

一方で、本事業では自治体(神奈川県、厚木市をはじめとする近隣自治体)、地域の企業、地域の高齢者、在学生、高校生等(進路指導教官、保護者含む)をステークホルダーとし、事業を通じて相互に関連し、研究成果がステークホルダーにメリットをもたらすよう務めます。「それによって本学のブランドイメージを向上させ、受験生にその魅力をアピールしていきます。そのためにも、今年度は、ステークホルダーによる地域コンソシアム(KSC-C: Kanagawa Smart Care Consortium)を形成し、次年度以降、支援技術およびサービス等の利用実験を行っていきます。」

いよいよ本格的にスタートした本学の事業。当該年度の申請157大学のうち、採択されたのはわずか20大学と、厳しい審査をくり抜けたことから、それに足る評価を得たことがわかります。「他に真似できない研究を推進し、ただ実行するのではなく、いわゆるPDCAのサイクルの中で学外評価委員会を設置し、大手企業や自治体、他学の研究者によるチェック体制も整えています。先進的工学拠点として、地域に貢献しながらその成果を広く周知し、『神奈川の工科大学のトップランナー』であることを目指します。」

統合サービスの具体例



本学の学生サポート

充実した学生生活を送るために、神奈川工科大学ではさまざまなサポートがあります。

学生課 学生生活を支え、明日へと導く

学生課では、学生の皆さんが充実した学生生活を送れるようさまざまな支援を行っています。

(主な支援業務項目)

◆学生生活(食・住・通学・健康・安全)支援

食: 学生食堂運営企画・管理

住: KAIT ERIM管理運営・指定寮、アパート紹介

通学: 急行バス・シャトルバス運行調整、車・自動二輪・自転車駐車場・駐輪場管理、安全運転研修会企画

健康: 学生相談室・健康管理室運営、定期健康診断、インフルエンザ予防接種実施

安全: 事件・事故防止、消費者被害防止・注意喚起、啓蒙活動

◆経済的支援(奨学金関連・アルバイト紹介・合宿旅行費用補助)

◆障害学生支援室との連携による障害学生支援

◆課外活動(クラブ・サークル・ボランティア)支援

◆事件・事故対応相談(よろず相談所運営)

◆その他

ブックセンター・マクドナルド営業調整、スポーツ施設管理、幾徳会館・KAITホール管理、その他

<学生相談室>

学生相談室では、臨床心理士の資格を持つカウンセラーが学生の皆さんのさまざまな悩みについて相談に応じています。保護者の皆さまからのご相談にも対応していますのでお気軽にご相談ください。秘密は守ります。また、必要に応じて、教職員や外部専門機関とも連携してサポートしています。フリースペースや仲間づくりのための集い「ゆるカフェ」のみの利用もできます。「ゆるカフェ」は毎週火曜日に開催しております。詳細はお問い合わせください。

◆相談内容

人間関係、身体や気持ち、学業、進路、性格など

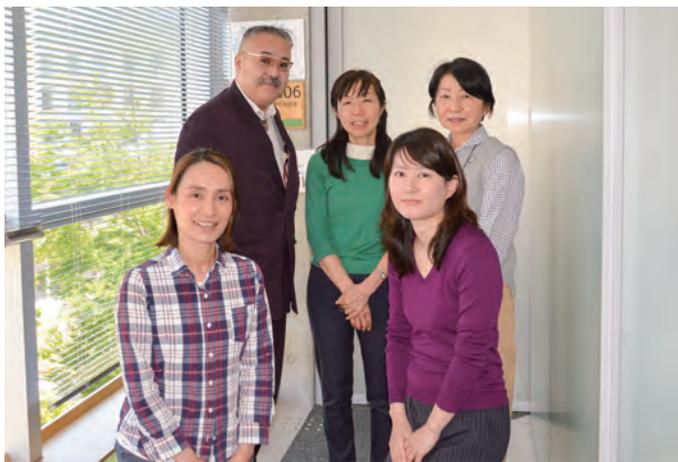
◆開室時間・連絡先

月曜～金曜(9:00～17:00)※受付は16:50まで

TEL: 046-291-3038 Eメール: sodan@kait.jp (返信には数日かかる場合があります。)

◆カウンセラー

臨床心理士6名/メンタルヘルス・アドバイザー1名(精神保健指定医:水曜日入室)



<健康管理室>

キャンパス内でケガや病気になったときの応急処置や、健康相談を行っています。症状によっては外部医療機関を紹介しています。また、学校医による健康相談や、医療機関への受診相談なども対応しています。



◆健康管理室対応時間 月曜～土曜 9時～16時30分(授業期間)

TEL: 046-291-3037 Eメール: Kenkou@kait.jp

◆校医による健康相談 毎週水曜 13時30分～15時30分

看護師による健康相談も行っています。*電話・メールでの対応もできます。

「奨学金」について

「日本学生支援機構奨学金」

本学でも多くの学生が利用している奨学金です。春の定期採用は終了していますが、「追加募集」がある場合は、学生課前の奨学金掲示板でお知らせしています。なお、家計の急変等の事由により奨学金が必要になった場合に対応する制度が日本学生支援機構奨学金にあります。採用条件等は学生課に問い合わせてください。

○緊急採用(第一種奨学金) ○応急採用(第二種奨学金)

(適格認定について)

※在学中継続して奨学金を受けるためには、審査(適格認定)を受け認定されなくてはなりません。学業成績も厳しく審査されます。

(審査項目)

「人物について」生活全般を通じて態度・行動が奨学生にふさわしく、奨学金の貸与には返還義務が伴うことを自覚し、かつ、将来良識ある社会人として活躍できる見込があること。

「健康について」今後とも引き続き修学に耐えうるものと認められること。

「学業について」修業年限で確実に卒業又は修了できる見込があること。

「経済状況について」修学を継続するため、引き続き奨学金の貸与が必要であると認められること。



父母説明会・個別相談会開催について

2019年度父母説明会・個別相談会は、以下の日程で開催します。なお、案内状の発送は8月中旬を予定しています。

〈開催日・開催場所〉2019年9月21日(土)・神奈川工科大学

キャリア就職課 満足度の高い就職の実現に向けて

希望の進路へ着実に進んでいけるよう、学生の就職活動をサポートするのがキャリア就職課です。キャリア就職課職員、キャリアアドバイザー、学科就職事務室は、日々就職に関する質問や相談に対応しています。

2019年3月卒業生の本学の就職率は98.3%、また進路決定率(卒業生全員に対する就職決定および進学決定)は95.0%でした。

現在、2020年春卒業生の就職活動が本格化しており、報道されているとおり、緩やかな景気回復と中小企業を中心とした人手不足が相まって、新卒の求人倍率も1.83倍(昨年比+0.05%)と高水準を維持し、本学における内々定の状況は順調に推移しています。企業の採用活動は、引き続き積極的に継続しています。学生の皆さんは直接本学に届く求人情報や学内で実施する「個別企業説明会」などを有効活用してください。



本学主催の「合同企業・病院説明会」を開催

本学卒業生が活躍している企業を中心に、大手企業から中堅企業まで優良企業が参加する合同企業説明会を開催しています。2018年度の本学主催の企業説明会には、延べ1,021社・団体の参加をいただきました。現在は2020年卒対象に、個別企業説明会をほぼ毎日実施しています。ホームページに説明会日程を公開しています。



インターンシップに参加しよう

●自己理解を深める

インターンシップに参加することで、自分はどのように行動し、何を感じたか、また、現在学んでいる知識や技術が、社会や仕事とどう関係しているかを気づくことで何を感じ、何に関心をもったか等、自分についての理解を深めることができます。

●業界・仕事への理解を深める

インターンシップでは、普段は外部の人には見せない仕事の現場をこの時期だけインターンシップ生に公開し、仕事を体験してもらいます。インターネットやメディアでは得られない、実際の業界・仕事に関する情報を知ることができます。

●就業体験を通してミスマッチを防ぐ

あなたが持っている仕事へのイメージは本当に正しいのでしょうか。仕事は実際にやってみないと、その面白さや難しさを理解するのは難しいものです。インターンシップでは、普段、社員の方々が取り組んでいる仕事を一緒に体験することにより、自分のやりたい仕事の“イメージ”と“実際”にギャップがないかを確認することができます。

キャリアアドバイザーを活用しよう!

面接や応募書類の対策はキャリアアドバイザーが対応しています。また、3・2年生のインターンシップ対策にも対応しています。事前予約制で個別対応なのでしっかりと相談できます。

<相談内容>

- ・就職活動の進め方
- ・業界研究や企業研究の仕方
- ・応募書類対策
- ・採用試験(面接)対策
- ・インターンシップ用提出書類の対策

<予約方法>

大学ホームページ「就職・キャリア総合サイト KAIT Career」の【学内生ページ】キャリアアドバイザー面談予約フォームから、志望業界や志望企業、相談内容等を入力してください。



教務課 授業・履修～学びのサポート～

大学では、高校までとは大きく異なり、「主体的な学び」=自分で科目を選択し、時間割を組み立てて1週間のスケジュールをつくり、サークルやアルバイト、ボランティアや海外留学など自分の判断で計画することができます。授業形態はまさにさまざま。高校時代のように先生の話を聞く講義形式、自らが体験する実習・実験、さらには少人数で行うゼミナール(演習)という大学ならではの授業もあります。「学びたいことを思いきり学べる」これが大学で学ぶことの何よりの魅力ではないでしょうか。ただし、良いことづくめではありません。卒業に必要な単位数が決まられていて、3年次終了時点で卒業研究着手要件を充足していない場合は残念ながら留年が決まってしまう。そのため、各学年での修得目標単位数を1年次40単位、2年次40単位、3年次30～40単位(臨床工学科は、1年次43単位、2年次44単位、3年次39単位)に設定し指導しています。さらに、事前・事後学習の時間を確保するために「CAP制度」を導入し、履修単位数の上限を設けて単位の実質化も図っています。

また、保護者の方は「保護者ポータルサイト」から学生の掲示板(連絡内容)・授業時間割・出席情報・出席率・試験日程情報を把握することができ、学生・保護者・大学が三位一体で学修状況をリアルタイムで共有しています。



研究室訪問

Laboratory visit

自動車運転者の心理的な余裕度と生体データとの関係性に関する人間工学研究

Q 研究内容について教えてください

自動運転技術が急速に進む現在、自動車は人間にとって「コミュニケーションロボット」となりつつあります。その結果、車載情報機器（カーナビ）には、運転者の疲労や心理状態を察して必要な動きや情報を提案する役割が求められるようになります。私はそのための基礎研究として、自動車運転者の心理的な余裕の度合い（以下、余裕度）と、心拍数などの生体データとの関係性を明らかにする研究に取り組んでいます。

当研究は、車載情報機器関連メーカーとの共同研究です。3年次後期の授業で興味を持ち、高尾研究室に配属後、先輩から引き継ぎました。4年次には、人間の心理的な余裕度を測定する「余裕度測定手法」を提案。論文を調べ、先生にアドバイスをいただきながら進めたのですが、まだ答えが見つからない研究のため当初は先が見えず辛い日々が続きました。しかし、諦めずに毎日研究を続けた結果、ついに新たな手掛かりを見つけることに成功しました。修士研究では、この手法が実際に使用できるか否かを検証するために実験を繰り返しています。計測する生体情報はそのときの被験者の状態が影響するため、より正確な結果を出すには回数を重ねる必要があります。大変ですが、次世代のロボット・カーの開発に役立つ研究であり、持ち前の粘り強さで頑張っています。



島田 翔太郎 さん

大学院ロボット・メカトロニクスシステム専攻博士前期課程2年
(高尾研究室)

Q この研究は社会でどのように役立つと良いと思いますか？

車載情報機器が運転者の余裕度を測り、運転者の状況にあった適切な量の情報を提示することが可能になるので、より安全な運転と確実な情報取得をできるようになることが期待されます。

Q これからの目標について教えてください

実験を重ねて必要なデータを取得し、心拍数など生体データと余裕度の関係性を統計的にモデル化します。さらに、そのモデルが余裕度推定に有用かどうかを検証する計画です。検証が成功すれば余裕度推定手法の開発となります。研究成果は、来年3月に学会発表をする予定です。



高尾研究室はどんな研究室？

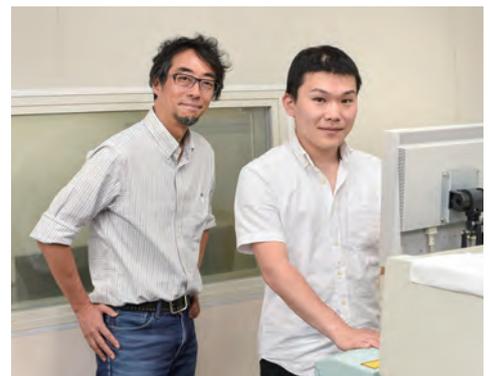
モットーは「ヒューマンエラーを憎んで人を憎まず」。学部生6名と院生3名、合計9名の賑やかな研究室で、学生と先生、学生同士の風通しも良いです。研究室のルールについては自由な部分が多いので、研究と自分の時間を両立しやすく、気持ちに余裕を持って研究に取り組めます。



高尾秀伸教授から島田さんへのメッセージ

**社会貢献したいという高い志を
人間工学の学びを通じて成熟させてください**

真面目で丁寧に、粘り強く最後まで研究に取り組んでいく学生です。彼が取り組んでいるのは企業との共同研究で、製品開発の現場に学生でありながらチャレンジし、社会貢献したいという高い志を持って取り組んでいます。この研究には、まだ誰も明確な答えを持っていません。勉強が得意で成績も優秀な彼ですが、それまでの学びと違って、まだ答えが見つからない問題に対して取り組むための考え方や方法を身につける必要があり、そこが一番の課題でした。取り組み初めて3年目。もうすぐイノベティブな結果が出そうです。粘り強さを活かして、志を成就してくれることを願っています。



高度な専門技術者・研究者の養成をめざす神奈川工科大学大学院では、現在204名の大学院生(博士前期課程184名、博士後期課程20名*4月現在)が在籍し、各分野の研究に取り組んでいます。

実験や検証に粘り強く取り組み、その結果から導き出した成果を携えて国内外の学会などで発表していく。物怖じせずに進んでいく姿からは、次世代を担う“若き研究者”としての誇りと頼もしさを感じられます。本学大学院生は、どのような研究に取り組み、それはどのように社会に役立っていくのでしょうか？各専攻から大学院生の「研究する姿」をお伝えします。

炎症誘導した成熟脂肪細胞に対するハーブ抽出物、及びビタミンEの効果



竹内 悠さん

大学院応用化学・バイオサイエンス専攻博士前期課程2年
(清瀬研究室)

組み合わせや、試薬とサンプル(細胞)の組み合わせを、一から手探りで探し、結果を出すために地道な努力を重ねました。ものごとを突き詰めて考えるのが好きなので、研究は自分の性格と合っている様に思います。実験手法での迷いがなくなった現在、自分で納得するまで実験がやれるようになり、考える余裕もできたので楽しく研究に向かっています。論文等で調べて考察したことが、実際に結果として得られたときの達成感とはまりません。

Q この研究は社会でどのように役立つと良いと思いますか？

肥満を予防する成分をサプリメントという形で提供し、食品由来という視点で、人々の健康維持・増進に貢献できると考えています。また、共同研究先の企業においても、この研究が役に立つということを実感できています。世の中に出ていく可能性も高いため、毎日責任感を持って研究に取り組んでいます。

Q これからの目標をお聞かせください。

研究を通して得られた結果を、国内外に発信していきます。学会発表は、昨年度は2回、今年度も2回、さらに、8月と9月にも予定しています。また、論文の執筆も進めています。就職先である健康食品系の会社でも、食品が本来持つ機能性を使って人々の健康に貢献したいと考えています。

Q 研究内容について教えてください

肥満が、2型糖尿病や脂質異常症、高血圧症など生活習慣病と密接に関わっていることは広く知られています。その理由については、細胞レベルでも明らかで、肥満脂肪細胞内では炎症が生じており、それが病気の危険因子であることがわかっています。私は肥満脂肪組織の炎症を抑制することが病気の一次予防であると考え、ハーブ抽出物(バクチャー・バジル)とビタミンEが脂肪組織内の炎症を抑制する効果についての検討と、そのメカニズムを明らかにする研究に取り組んでいます。

実験で使用する細胞は1カ月ほどかけて培養し、最適な状態で実験に取り掛かります。新たな分析方法で進めることになった際には、使用する試薬の

清瀬研究室はどんな研究室？

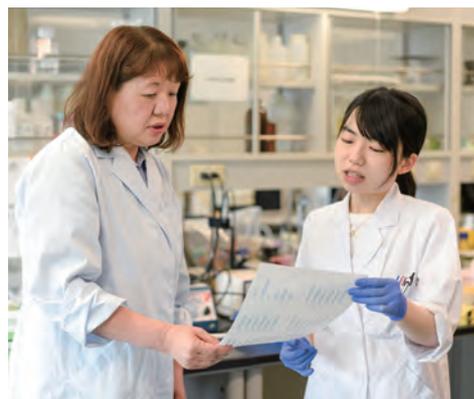
管理栄養士の国家試験合格を目指しながら、各自が研究テーマを持ち真剣に取り組んでいます。授業と実験で忙しい毎日ですが充実しており、私は学部生たちが頑張っている姿を見るのが好きです。誕生日会を開いたり、研究室日誌を書いたり、フレンドリーな雰囲気です。



清瀬千佳子教授から竹内さんへのメッセージ

研究室で学んだことを大切に 就職後も今と変わらないスタンスで！

研究に必要な「問題解決能力」は最初から持っていたのだと思いますが、本格的に研究に取り組むようになり、本人がその力に気づき「目覚めた」という印象があります。研究に取り組む力も充分ついています。また、学部生たちにも色々なアドバイスをしてくれます。考える力もあり、勉強することも好きなので、安心してそれが任せられる学生です。就職先では壁にぶつかることもあるでしょう。ただ、この研究室で学んだことを自分なりにやっていけば、きっと前に進んでいけます。今と変わらないスタンスで社会人になっても頑張ってください。



苦手な教科を克服したい人も、得意科目を伸ばしたい人も、もっと活用しよう！
 学生たちの学びの味方！

基礎教育支援センター

本学の学生たちに「キソキョー」の愛称で親しまれている「基礎教育支援センター」は、大学での学びに必要な不可欠な高校の学習範囲を大学内で、無料で、個別に、復習できるセンターです。2018年度の利用者は延べ3,501人。

サポートを行う教科は、工学系大学の学習の基礎教科となる「数学」「物理」「化学」「生物」「英語」。予約の必要はなく、空いている時間に気軽に利用することができます。指導にあたるのは、基礎教育定着のノウハウを十分心得ているベテランチューター。利用者たちは、個別指導で、未履修科目を勉強したり、苦手な科目を補ったり、得意な科目をさらに伸ばしたりしています。



基礎教育支援センター 相談内容

生物の相談内容
 基礎生物 44.3%
 生化学 40.5%
 教職 7.5%
 生物実験 3.7%
 学習相談 3.7%
 その他 0.3%

英語の相談内容
 試験資格など 59.4%
 授業の課題 21.5%
 英語の基礎相談 14.2%
 その他 4.9%

物理の相談内容
 力学 49.1%
 一般物理 31.2%
 電磁気 14.6%
 実感する科学 3.4%
 物理と数学 0.9%
 その他 0.8%

数学の相談内容
 基礎数学 20.2%
 微分 18.8%
 線形代数 15.2%
 積分 14.8%
 身の回りの数学 6.2%
 三角、指数、対数 5.9%
 数列と極限 4.8%
 微分方程式 2.8%
 その他 11.3%

化学の相談内容
 有機 30.7%
 無機 23.6%
 物化 22.4%
 実感する科学 15.0%
 実験 3.6%
 分析 2.3%
 学習相談 2.0%
 その他 0.4%



塩田 保 先生（担当教科：英語）より
 英語の場合は、基礎から応用まで、ABCから英語での科学論文の書き方、プレゼン用の英語まで、ありとあらゆる相談に対応しています。

学内でTOEICのIPテストを実施しているので、年間を通してTOEIC関係の相談も多いです。大学生だからというプライドを持って臨んでしまうと、授業も難しいので後々苦戦するでしょう。もう一度原点に戻っての学び直しが大切です。

“原点”がどこかは、それぞれで違うから、英語の場合は中1に戻ることもあるし、高1に戻ることもある。恥ずかしがらずに、何でも相談に来てください。



Q
 どんな風に教えてもらえますか？

A
 基本的には、学生さんが課題のプリントなどを持ってくるので、それに対して教えるというスタイルです。その他、自習ができるようにと、单元ごとに学習できるパワーアップノートを用意しています。



グループワークもできる多目的室

堺 和幸 先生（担当教科：数学）より
 数学は、高校で勉強する内容には全部対応しています。相談内容は、中学で習う基礎的なことから、大学2年次で履修する専門基礎科目、専門基礎科目導入あたりまででしょうか。特に多いのは、工学部系統で必要となる微積や代数についての相談です。心配なのは、高校で数学IIIをやっていない学生さんです。特に工学部系の学生さんには、ぜひ来て欲しいです。来てくれれば、一歩踏み出せると思います。また、この先、数学を学び直せる機会は無くなるので、数学が苦手な学生さんは、今、ちょっとやり直せば、ずいぶん伸びるんじゃないかと思っています。



- 場所：KAITホール2階（1階にマクドナルドがある建物）
- オープン：月曜日～金曜日
- 時間：11:00～18:00

予約は必要ありません。空いている時間に気軽に利用することができます。学習スタイルは、チューターと一対一です。友達と一緒にグループ利用も可能です。

新入生父母懇談会を開催

4月4日、パシフィコ横浜にて入学式が行われました。それに伴い、全学科の新入生父母懇談会が同日・同場所で実施され、機械工学科は、本年度が初めての実施となりました。新入生152名の内、58名の新入生のご父母に参加いただき、総人数では80名を超えました。

同懇談会の趣旨は、教育体系やサポート体制等をご理解いただき、疑問や不安を解消していただくというものです。学科長挨拶に始まり、1時間程度の学科全体説明(教務説明、就職説明、学生生活説明)と、個別相談を実施しました。特に、個別相談に関しては、学生目線に立った有益な情報を提供してご安心いただけるよう、本学科教員10名と、更に大学院生を中心とした11名の学生にもスタッフとして参加してもらいました。

初めての取組みで、手探りで臨んだ新入生父母懇談会でしたが、アンケート結果の満足度では、満足:51%、やや満足:47%という結果であり、概ね目的を達したと考えています。

なお、今後も継続する企画であることから、本年度の改善等も含め、より良い懇談会の実施を考案していきたいと考えています。

(文責:機械工学科/中根 一朗)



大学院生の研究紹介

大学院博士前期課程機械工学専攻1年 坂元 洋輝

現在、軌道上には多数の宇宙デブリ(ゴミ)が存在します。その数は年々増加しており、低軌道において特に顕著です。この対策として、今後打ち上げられる宇宙機は25年以内に軌道離脱させることが国際的なガイドラインにより推奨され、さまざまな取り組みがなされてきています。

私は将来打ち上げられる小型衛星を、運用終了後に軌道離脱させ除去するデバイスの初期検討を行いました。これは、衛星の運用終了後に導電性のテザー(ひも状の構造物)を展開し、そこに電流を流すことで、地球磁場との干渉によるローレンツ力を発生させ、軌道離脱に利用するものです。力学モデルを検討し、テザーを展開する際の伸展挙動の特性を、MATLABを用いて解析しました。

当初、MATLABのプログラムを組むことが慣れず何度も失敗しましたが、原因を追究し冷静に対処していくことで満足のいく研究結果が得られました。今後は解析結果の精度をより高めたいと考えております。



日本機械学会関東学生会「第58回学生会卒業研究発表講演会」にて「Best Presentation Award」受賞

新入生父母懇談会を開催

2019年度新入生の父母、保証人の方を対象に、新入生父母懇談会を開催しました。4月4日にパシフィコ横浜で行われた入学式の終了後に多くのご参加を賜りました。すべての学生が充実した4年間を過ごすことができるためにどのような施策、サポート体制を設けているのかについて、参加された皆様のご理解、ご認識をいただくため開催いたしました。特に入学後、しばらくは教職員とご父母、保証人との協働が重要であるという指摘もなされており、こうした側面での注意喚起や協働のお願いも目的としました。懇談会にはすべての学科教員が出席。教員紹介から、学生生活を進める上での留意点(1)引きこもり・心の病等(2)アルバイトによる弊害(3)朝食欠食の悪影響(4)交通事故の危険性(5)ギャンブル依存(6)悪質商法(7)SNSに関わるトラブルについて。学修の側面では、教育カリキュラムの説明と成績不振・意欲低下の徴候について説明を行いました。また学科独自の支援体制を示しました。週あたり2回、大学院生2名と教員1名の体制で行っている「よろず質問室」。電気回路、数学など専門基礎科目に関することから進路相談など、可能な限りの支援を行っています。また、電気工事士試験の実技実習をはじめとする資格取得支援の説明を行いました。本学では就職支援を専門に行う事務職員を配しています。学生の円滑な就職活動のための支援体制についてお話ししました。加えて、就職内定実績、大学院進学実績について情報を提供しました。全体説明に続いて個別相談を実施。具体的な課題を共有する良い機会となりました。ご参加くださった皆様からは、学科の具体的な取り組み、卒業に必要な履修要件について概ねご理解をいただきました。教員との協働についても重要性をご認識いただけました。次年度以降も継続する予定です。学生生活がより実りあるものとなるよう努めてまいります。

(文責:電気電子情報工学科教授/橋原 浩一)



板子教授が企業と共同で 高効率に発電できる 太陽光システムを開発

電気電子情報工学科の板子一隆教授がデータテクノロジー(株)と共同でIoTを活用した太陽光発電システム「スマートPVアレイシステム」を開発したことが6月21日の日刊工業新聞で紹介されました。

同システムは、パネルごとに昇降圧型DC-DCコンバータユニットを装着。ユニットでパネルの状態をスキャンし、状況に応じて電力を調整できるため太陽光発電パネルに影がかかっても高効率(従来と比べて最大1.6倍)に発電できます。今後、メガソーラーへの導入など製品化を目指します。

また、7月10日から行われた「PV2019太陽光発電展示会」にて同システムを出展しました。



板子一隆教授



スマートPVアレイ

新入生を迎えて

今年も新入生の皆さんと、教員、新入生の先輩である本学科学生が同行し、フレッシューズキャンプを行いました。場所は山梨県の石和温泉です。駅前にロールケーキを販売している店がありますが、そこには寄らず、温泉旅館でゆっくりりもさほどなく、重大行事である「応用化学科の履修コースの決定と時間割の作成」を行う、ほぼ缶詰状態のイベントです。しかし、新入生にとっては同行している先輩たちから、履修のアドバイスや授業の情報も得ることができて、安心感があります。

フレッシューズキャンプは入学式の翌日から一泊で行いました。大学から2台の大型バスに乗り、一路石和へ。圏央道ができたので、大学から山梨も結構近くなり、2時間ほどで、石和着。春の山梨はいろいろな花が咲いていて、満開の桜、桃といった木々が車窓を賑わせていました。そんな中、まだ出会ってからそれほど時間が経過していないためか「友達があんまりいないな。」という新入生もちらほら。そこで、応用化学科恒例になりつつある「アイスブレイク」を行いました。数年前から講師を呼んだり、自前で用意するなど、学生同士で緊張した心をほぐしつつ、できれば教員とも仲良くなってほしいという思いを込めて実施しています。身体を動かすゲームなのですが、興味がある読者の皆様は「『猛獣狩りにいこうよ』って何?」って新入生に聞いてあげてください。踊ってくれます。

体と心をほぐしつつ、カリキュラムやコースの話しを聞き、新入生の皆さんも、うちとけながら無事に時間割を作成することができました。帰りのバスでは、新しい友達と楽しいおしゃべりや、疲れて睡眠をとるなど様々な様子がうかがえました



授業紹介

卒業研究体験実習

応用化学科では、「卒業研究体験実習」という授業を行っています。研究室に配属されて、教員や先輩と一緒に実験を行う授業です。グループで話し合いながら、実験に取り組むため、話し合いや調査、発表など、これまでの座学の授業で培った知識とは、異なった能力が身につきます。配属された研究室では先輩の研究の一部を行ったり、自分たちで考えてテーマを決めて実験を行うなど、進め方は様々ですが実験を行うことで、将来の卒業研究のイメージや、新しい知識の習得など「体験から学ぶ」ことを行います。今年はどうのようなテーマで実験を行っているのでしょうか。中間発表がちょうど終わったばかりで、様々な意見を参考に後半戦に突入します。この授業は3年後期まで選択することができるので、興味を持った学生は、4年間、続けて卒業研究を行います。実際に研究発表会などへの参加もしています(詳しくは学科ホームページをご覧ください)。



中間発表の様子

臨床工学科フレッシューズ・ガイダンスを開催

今年度、4期生となる新入生39名を迎えることができました。そして、4月5日・6日の2日間、臨床工学科フレッシューズ・ガイダンスが実施されました。

1日目は、学科教職員の紹介の後、学科における学びの姿勢と、臨床工学技士の仕事内容とマナーに関して説明がありました。昼食は、学生・教員揃っての会食で、2～4年生も10名ほど参加し、楽しい時間を過ごしました。午後は、附属図書館と基礎教育支援センターの紹介、クラス担当教員との懇談、4年生による学習の注意点の説明がありました。最後に教員から、なぜ臨床工学科を志望したのか、といった質問をし、学生2名1組で話し合うアクティブラーニング形式で、臨床工学技士になることへの覚悟を新たにしました。

2日目は、キャンパスツアー、パソコン講習を行い、学生相談室の先生によるレクリエーションを行いました。この2日間で、新入生同士の交流を深め、4年間の学びがスタートしました。

(文責:臨床工学科教授/松田 康広)



1組の皆さん



2組の皆さん

臨床工学科の学生による 臨床工学関連学会の運営支援

臨床工学領域は知見や技術の進歩が早く、臨床工学技士の多くは学会参加などを通じ、自身の専門分野に関する知識習得を行っています。臨床工学技士が集まる学会や研究会へ学生が参加することは、知識習得だけでなく、職域の文化を学べる重要な機会になり得ます。本学科の学生には学会参加だけでなく、学会運営支援や発表を行う学生も居り、これまで幾つかの学会運営に関与しました。今年は既に「日本医学治療学会第35回学術大会(2月22～24日)」で8名、「第46回日本血液浄化技術学会学術大会・総会(4月19～21日)」で10名、「第27回東京都臨床工学会(6月2日)」で8名の学生が運営支援を行い、その「仕事ぶり」には高い評価を頂きました。参加した学生からは「学内で得られない事を学べた」、「業界の人達と話して理解が深まった」、「またやりたい」など、全員から前向きな感想がありました。本学科は今後も臨床との関係を密に、社会に役立つ医療人を育てます。

(文責:臨床工学科教授/鈴木 聡)



着任のご挨拶

臨床工学科 教授 河口 進一

本年4月より臨床工学科に着任いたしました河口進一と申します。サーバ、パソコンなどの計算機はもとより、スマートフォン等の情報端末や医療機器など、世の中は様々な情報処理システムで溢れています。低炭素社会を目指す中で、これら情報処理システムのエネルギー消費は大きな社会的課題であると言えます。河口研究室では情報処理システムでの新たな電力供給システムを創出することによる省エネルギー化を図り、低炭素社会の実現、地球温暖化防止への貢献を目指します。どうぞ宜しくお願いいたします。

【専門】 情報システム、電力変換システム

【担当授業】 電気工学I、電気工学II、電気工学実習、医用機器安全管理学実習、臨床工学セミナー、卒業研究、他

開発プロジェクト 「走行会」を開催

自動車システム開発工学科では、自動車開発のプロセスを実践する「プロジェクト授業」を重視しており、未来の自動車の製品開発に必要な企画・設計・製作・評価を統合的に学びます。3年次には数名ほどでチームを組み、それぞれの専門分野を活かした車両を製作します。その成果報告を兼ねた「走行会」を本学中央緑地公園で4月23日に開催しました。

例年通り各人の得意分野を活かした特徴ある車両が多数参加し、颯爽と走行する姿が披露されました。さらに今回は、連携している企業の方に参加頂いた上、モーターファン・イラストレーテッド誌にも掲載されました。

ここで学んだことは、4年次の卒業研究や大学院博士課程での研究に反映するのはもちろん、将来の日本の自動車産業を支える技術として必ずや活かされるものと期待しています。（文責：自動車システム開発工学科教授／脇田 敏裕）



着任のご挨拶

自動車システム開発工学科 教授 脇田 敏裕

1月に着任した脇田敏裕と申します。これまで自動車関連の企業研究所に30年以上在籍し、自動車と人間との関係を研究してきました。将来自動車はますます知能化すると同時に社会における役割も一層重要なものとなります。そこで研究としては引き続き「自動車と人間」をテーマに進めます。

一方、大学の役割は「教育と研究とを社会からの信託に基づいて推進すること」とお聞きしました。そこで今後はまず教育のスキル習得を最優先とし、学生の成長と研究の推進との両立を一日も早く実現したいと考えます。ご支援・ご指導よろしくお願ひいたします。

【専門】ヒューマンインタフェース
【担当授業科目】制御工学、次世代自動車情報通信など

大学院生が「ライフサポート学会奨励賞」を受賞

大学院博士前期課程ロボット・メカトロニクスシステム専攻のファンファンロックさんが、ライフサポート学会奨励賞を受賞しました。ライフサポート学会では、全国の国公私立大学卒業予定者・大学院修了者および高等専門学校専攻科修了予定者のうち、人格、学業ともに最優秀で、生命・生活支援技術の発展に積極的に取り組んだ学生を対象とした奨励賞を設けています。ロックさんは、修士論文研究として「ヘルスケア・モニタリングロボットに関する研究」に取り組み、その研究成果が評価されました。

本研究は、体温、脈拍数、血圧などのバイタルデータをセンシングし、その情報をネットワークにより、医療機関などの外部に伝えるシステムの開発を目的としたものです。ロックさんは、本研究の成果を3月15日に行われた第28回ライフサポート学会フロンティア講演会で発表し、本賞もその場で授賞しました。ロックさんは、4月より金属加工メーカの技術者として第一歩を踏み出しましたが、大学院での研究経験を活かして、今後社会で活躍されることと期待しています。（文責：ロボット・メカトロニクス学科教授／河原崎 徳之）



「健康未来EXPO2019」への出展

3月30日～4月7日、名古屋市国際展示場で開催された「健康未来EXPO2019」に人間機械共生研究室のロボットシステムを出展しました。日本医学会総会の招待企画による特別展示で「人と共生する介護医療リハビリ支援ロボット・ルチャ」という展示ブースを設置し、子どもたちが健康を支える最新技術を楽しく学べるように研究機のLucia（黒、赤、緑）と製品版の量産機Kurumiを展示して、「見守り・リハビリ・コミュニケーション」の3テーマを体験してもらいました。本学の教員学生の他、学外の看護学生、共同研究先の開発者など総勢20名で展示の説明をしました。車いす利用者の方にもロボットの遠隔操作を会場で実演していただき、展示会全体で約30万人の来場者を迎えることができました。展示会ではその後につながる出会いや思いもよらないアイデアが生まれることも多く、充実したひとときを過ごすことができました。（文責：ロボット・メカトロニクス学科准教授／三枝 亮）



技能五輪プレ大会に参加

本学科3年生小川実結人さんと、1年生藤田優一郎さんが「技能五輪 国際プレ大会（北京 6月9日から16日）」に日本代表チームデンソーチームと参加しました。各国の代表チームとともに国際技能五輪に向けてのスキルアップと具体的な課題ロボットの設計製作に取り組みました。

8月には、若年者ものづくりコンテスト「移動ロボット部門」に参加し、国内技能五輪大会本戦にもチャレンジを予定しています。

（文責：ホームエレクトロニクス開発学科准教授／三栖 貴行）



参加した藤田さん(左)と小川さん(右)

本学科「教員養成コース」所属学生の活躍

5月11日、中津公民館レディースプラザで行われたボランティア講座「土曜寺子屋」に本学科「教員養成コース」に所属の1年生中山鴻志さんが三栖准教授と共に「家電分解」の授業を実施しました。小学生の対応ということもあり中山さんは苦戦したようですが、「高学年の児童に教える方が簡単ということがわかりました。低年齢になるほど教えるのが難しいということを経験しました。」（小学校1・2年生が6名と5・6年生が2名が参加）と話しています。今後の教員養成コースでの活動につなげてもらいたいと思います。



児童に説明をする中山さん(中央奥)

スピーカー甲子園2019で準優勝!

「スピーカー甲子園2019」に参加した本学「オーディオ研究部」が準優勝しました。部長を務める本学科3年生の青木琢真さんが代表として作った「コンクリートスピーカー」は、視聴させてもらいましたが、感動的で素晴らしい音です。青木さんは「本学科の後輩の1年生2名にコンクリートスピーカーを引き継いでもらいたいです。彼らの代では優勝して欲しいです。」と話しています。

（文責：ホームエレクトロニクス開発学科准教授／三栖 貴行）



スピーカーを制作した青木さん

新しいバイオフィアミリー(14期生)を迎えて

4月5日～6日に120名の新入生を迎えてフレッシュャーズキャンプに出かけました。大学で学科教職員の紹介や行事の説明を行い、アサヒビール神奈川工場の見学および昼食後、富士山の麓のホテルに移動し、クラス会を行いました。クラス会では、新入生の自己紹介や履修相談が行われました。履修相談には15名の教員だけでなく、10名の上級生も相談相手として参加し、先輩学生ならではの貴重なアドバイスもありました。

4月9日には「キャンパスラリー」を開催。キャンパスラリーは応用バイオ科学科の施設を知り、学生同士の親睦を深めてもらう目的で毎年実施されています。今年度の新入生は5名で1グループを作り、施設内に隠れている「はたらく細胞」を探索しました。早く発見した上位チームには、賞品として実験ノートや筆記用具が贈呈されました。その後は第1食堂にて第13回縦コンを開催。縦コンは新入学生を歓迎するイベントで、例年通り2年生が準備を進めてくれました。約200名の学生が参加し、なぞなぞ大会などが行われ、大盛況でした。1年生には、4年間で様々なことにチャレンジし、大きく成長してほしいと願っています。



2018年度成績優秀者表彰

新学期ガイダンスに合わせて、2018年度成績優秀者として以下の学生に、表彰状と記念品が授与されました。

新4年生：丸尾 達也さん、三浦 良胤さん、秋末 花澄さん

新3年生：秋山 佳穂さん、長瀬 和基さん、小林 宣正さん

新2年生：瀧口 翔太さん、椎名 空良さん、渡部 雄斗さん

また、上記の学生と新4年生山岸 崑さんに菊池幹夫奨励賞が授与されました。



新4年生



新3年生



新2年生

新入生保護者会の開催とフレッシューズキャンプ

4月4日に行われた新入生保護者会では、33名の新入生のご父母が参加くださいました。学科長の挨拶から始まり、教務等、今の学科の現状をお話しさせて頂きました。ご父母から新学部への移行についてのご質問も出て、これからの本学科に非常に関心を寄せて頂いていることがわかりました。その後のフリートーキングでは、ご父母と教員の間で話が弾みました。特に、ご父母同士で話しが弾んだグループもあり、学生だけではなくご父母同士の輪が広がったことはこの会を開催した意味があったと感じました。

続いて、4月5日～6日にかけてフレッシューズキャンプを行いました。河口湖フィールドセンターにて、教員・学生でグループを作って飯盒炊爨を行い、カレー作りに挑みました。飯盒でご飯を炊いたり、野菜を切ったり煮込んだりと学生達は初めての事でしたが、お互い声を掛け合ってカレー作りを行っていました。フレッシューズキャンプでのこのイベントは教員の間でも高評価で、学生たちの仲間づくりには本当に良いきっかけだと思います。その後、山中湖に移動して宿泊先では懇談会を行い、履修登録など先輩たちからアドバイスを受けていました。

(文責:栄養生命科学科教授/清瀬 千佳子)



新入生保護者会の様子



新入生フレッシューズキャンプ

+α資格取得プロジェクトの報告会を開催しました

4月3日、「+α資格取得プロジェクト」の報告会がC6号館にて開催されました。当授業は「管理栄養士」の国家資格に加え、もう一つの資格を身につけることで、より専門性の高い管理栄養士、すなわち専門職業人=プロフェッショナルを育成することを目的に「+α資格取得プロジェクト授業」として実施しているもので、より向学意識の高い学生が、このプロジェクトに参加することができます。

「食育」「食品産業」「調理家電」「スポーツ栄養」「臨床栄養」の5分野において、学生達は食品関連企業やスポーツクラブチーム、介護施設、県や市との連携等で得た知識や経験について熱心に報告をしていました。報告会会場は満席で、下級生を中心とした聴衆から質問が幾つもあり、上級生は丁寧に答えるなど、活発な討議がなされました。またプロジェクトで指導を賜った学外の先生も会場にお越し下さり、和やかで盛会となりました。

(文責:栄養生命科学科准教授/澤井 明香)



着任のご挨拶

栄養生命科学科 准教授 三宅 理江子

本年4月より栄養生命科学科に着任いたしました三宅理江子と申します。管理栄養士養成課程の応用栄養学分野を担当しています。これまで、主にエネルギー消費量の構成要素である基礎代謝量や身体活動量の研究を行ってきました。健康に過ごすためには食事と身体活動(運動)のバランスが大切です。本研究室ではエネルギー消費量の研究から個人に見合ったエネルギー必要量や食事量、身体活動量を提案することで、生活習慣病や介護を予防し、健康長寿に貢献します。よろしくお願いたします。

【専門】応用栄養学、エネルギー消費量、身体活動量、低栄養、応用健康科学

【担当授業科目】応用栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、応用栄養学実習、生命科学概論、専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究



新入生歓迎イベント紹介 ～KAIT WeV、FG、フレッシューズ父母の会～

情報工学科では、昨年度から入学前ピアサポートとして「KAIT WeV」と題したウェルカムイベントを実施しています。まだ入学式の前ですが、すでに引越しを終えて一人暮らしをスタートさせている人たちが多く、70名近くの新生(予定)生がイベントに参加してくれました。午前の部では、4月から始まる授業に備えて数学の学習会やパソコンの基礎的な使い方などを学びました。お昼の交流会では教職員も参加し、仲間作りの一環として先輩も交え、グループで様々なミッションに挑戦しました。午後の部では、情報工学科らしくプログラミングの学習会を行いました。今後の授業に活かされることを願っています。

入学後のフレッシューズガイダンスでは、新入生・教職員総勢200名超の大イベントとなりました。学内最大の講堂を会場にして午前はオリエンテーション、午後からはクラス単位に分かれて昼食タイムとなり、担任の教員主導の下で自己紹介をするなどして交流を深めました。その後は履修計画のアドバイスや研究室の見学、学内の散策などを行い解散となりました。2日目は、履修計画の相談会と、ノートPCの受領を行い、各々自分だけのパソコンを手に入れました。4年後の卒業を目指し、二度とない青春の日々を後悔無きよう送って欲しいと切に願います。

(文責:情報工学科准教授/須藤 康裕)



KAIT WeVの様子



フレッシューズガイダンス

入学式当日には、全学科で初めて「新入生父母懇談会」が開催され、多くの新入生の保護者の方々にご参加いただきました。情報工学科では全学科に先駆けて昨年度から開催しており、今年で2回目となります。学科長をはじめ、各委員の先生方から大学生活に関する全体説明があった後、立食形式の懇談会が行われました。懇談会には本学科の学生(4年生や大学院生)も合流し、軽食や飲み物を楽しみながら、保護者の方々からの質問に適宜答えてくれていました。また、懇談会と並行して個別相談窓口も用意されましたが、20組を超える相談者が訪れました。

(文責:情報工学科教授/辻 裕之)



国際学術機関無線LANローミング基盤「eduroam」への参加

情報ネットワーク・コミュニケーション学科 岩田 一・瀬林 克啓・丸山 充

現代社会ではインターネットは重要な社会基盤となっており、あらゆるサービスがインターネットに接続できていることが前提となってきています。インターネットへの接続手段としては、大手キャリアの携帯通信網が広く使われていますが、一定の通信量を超えると速度制限がかかるなど、本格的な作業を行うためには不十分となっています。そのために空港や駅などの各種公共施設や各種店舗などで提供されている公衆無線LANサービスが使われていますが、契約するサービスによって接続の設定をそのたびごとに変える必要があり、セキュリティにも不安を抱えています。

この問題を解決するために、世界中の大学や研究所などの学術機関での利用を目的とした、eduroam (Education Roaming)という無線LANローミングサービスが提案されています。eduroamに参加している大学に所属する学生であれば、他の大学などが提供するeduroamの無線LANであっても同じ設定で通信サービスを利用することができるようになります。また、暗号化対応を必須としているため、eduroamでの接続であればセキュリティ面の不安も少なくなります。

今回、近い将来の神奈川工科大学全体でのeduroam使用に向けて、情報学部を中心とした一部の学生と教員での試験運用を行うこととなりました。情報ネットワーク・コミュニケーション学科の学生4名が、このeduroamのサービスに対応するためのネットワーク構築や環境設定を行ってくれました。

eduroamは参加する大学や研究所が相互に利用できるサービスなので、試験運用だけでも神奈川工科大学側が単純に接続できるようにするだけでなく、セキュリティに対応しているかの確認なども行われるため、実践的なネットワークサービス構築の学びにも繋がりました。

また、eduroamを使用するためのアカウント管理やトラブル対応といった保守運用についても学生が主体となって行っています。ネットワークやセキュリティなどの専門エンジニアを目指す学生達にとって、大きな経験となったようでした。

(文責:情報ネットワーク・コミュニケーション学科准教授/岩田 一)

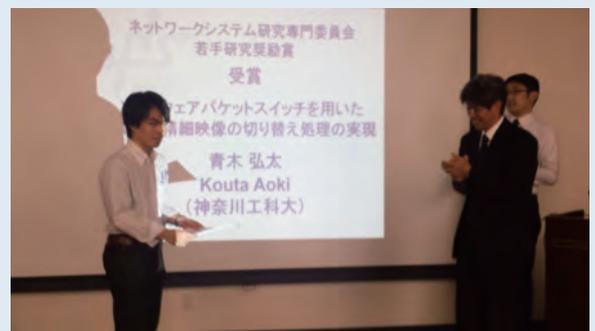
大学院生が若手研究奨励賞を受賞

大学院情報工学専攻博士前期課程2年の青木弘太さんが、4月に開催された電子情報通信学会のネットワークシステム(NS)研究会で「若手研究奨励賞」を受賞しました。講演名は、「ソフトウェアパケットスイッチを用いた8K超高精細映像の切り替え処理の実現」です。

内容は、映像編集時に用いられる複数の8K映像素材間の切り替えを行う映像スイッチング(TVのチャンネル切り替えのようなもの)に関するものです。従来は切り替えに数秒の時間を要する課題があったのですが、本発表では、この切り替え時間を最小にすることを目的に、伝送路上に設置したパケットスイッチを使った切り替え処理方式を提案し、実装した結果を報告しました。

NS研究会の若手研究奨励賞は、特に優秀であり、今後の活躍が期待できると認められた奨励講演の発表者に対して表彰を行う制度です。1回目の講演で、候補者としてノミネートされた後、次の発表で進展を審査されるため、ノミネートされた10%しか表彰されないそうです。

(文責:情報ネットワーク・コミュニケーション学科教授/丸山 充)



新入生のためのフレッシューズガイダンスを実施

4月5日に情報学部棟の12階にあるメディアホールにて新入生のためのフレッシューズガイダンス(FG)が実施されました。フレッシューズガイダンスは、情報メディア学科に関わる教職員と新入生との初顔合わせの場であり、学生生活の第一歩として重要な催しです。ガイダンスは、学科長である佐藤先生の挨拶からはじまり、教職員の紹介や優秀な実績を残した先輩方の表彰などが行われました。佐藤先生は挨拶の中で、大学生の心得として大学での学びは、高校までの学習ではなく学修となり、習うのではなく身につけることが重要であること、また、主体的に学ぶ姿勢が大切となることを伝えました。最後に行われた懇親会では、乾杯と同時に新入生同士の会話がはずみ、出身地や趣味などの会話や、連絡先を交換する姿などが見られました。今回のFGを通じてこれからの4年間の学修を共にする仲間との親交を深めることができました。

(文責:情報メディア学科准教授/鈴木 浩)



専門教育講師をお迎えしました

情報メディア学科では、二人の専門教育講師をお迎えしました。専門教育講師は教育開発センターの所属ですが、本学科と密に連携を取って学科の学生教育に携わっていただいております。担当授業科目は、情報メディア基盤ユニット、情報メディア基礎ユニット、情報メディア専門ユニット等です。

井藤 雄一 講師

2014年3月中京大学大学院情報科学研究科メディア科学専攻博士後期課程修了((博士)メディア科学)。同工学部助手・助教を経て、2019年4月より神奈川工科大学専門教育講師。音響や映像などの情報メディアの性質を活かしたアート制作・研究が専門で、近年は情報や技術の意図的な誤用から得られる表現について考究している。



村上 依子 講師

東京芸大美術学部工芸科卒。広告会社で印刷媒体のアートディレクションを手掛けた後渡米。南カリフォルニア大学映画学校でアニメーションを専攻。2005年MFA取得。以後フリーランスで映像制作に携わる傍ら2014年から2018年までカリフォルニアの公私立大学と高校でアニメーションを教える。2019年4月より神奈川工科大学専門教育講師。



1期生が第108回看護師国家試験 合格率100%達成

平成30年度学位授与式翌日(3月22日金曜日)に看護学部1期生が受験した第108回看護師国家試験および第105回保健師国家試験の結果が発表されました。本学では看護師国家試験に66名全員が合格、保健師国家試験は19名中16名が合格という優秀な成績を修め、全卒業生が希望する進路に進むことができました。前日には、合格発表を目前に控え不安に包まれましたが卒業を迎えた学生もいましたが、合格発表直後には学部全体が喜びに包まれました。

第108回看護師国家試験を受験した大学は252大学、そのうち合格率100%を達成したのは48大学(神奈川県内では2大学)のみでした。合格率も近年の国家試験の中では低水準となりましたが1期生の国家試験に向けてのラストスパートには目を見張るものがあり、その努力が実を結びました。

18歳人口が減少する中、看護師を養成する大学は右肩上がりに増えています。平成初期には約10大学だった看護系大学は平成20年に156大学、平成30年では263大学となりました。専門学校や短期大学を含めた看護師養成定員は6.7万人に近づき、国の看護師需要見込数を越えるほどの看護師の養成が行われる時代になりました。看護師国家試験を取り巻く状況は厳しくなっていますが、日々の学びの積み重ねから国家試験に合格できるようさらに国家試験対策を充実させていきたいと思っております。

(文責:看護学科講師/杉山 洋介)



	出願者数	受験者数	合格者数	合格率
第108回看護師国家試験全国	64,153	63,603	56,767	89.3%
本学	66	66	66	100%
第105回保健師国家試験全国	8,469	8,376	6,852	81.8%
本学	19	19	16	84.2%

看護師・保健師(国家試験)の資格を希望する学生を徹底指導し、高い合格率を実現します。

新任教員紹介



<母性看護学領域>
教授 前山 直美



<老年看護学領域>
特任教授 鬼澤 恵子



<公衆衛生看護学領域>
教授 入江 慎治



<老年看護学領域>
講師 日野 徳子



<小児看護学領域>
助教 坂田 徳生



<在宅看護学領域>
助手 生井 葉子



<精神看護学領域>
助手 前澤 尚子

学生☆活躍

情報メディア学科がCG-ARTS協会より文部科学大臣賞「団体賞」を6年連続で受賞

情報メディア学科は、平成30年度[CG-ARTS検定]で受験者219名のうち、105名の合格者を出し、CG-ARTS協会の所管である文部科学省から、優秀な成績を修めた団体として、6年連続となる文部科学大臣賞「団体賞」を受賞しました。

さらに、加入認定教育学校の中で、トップレベルの合格者数を記録した実績において、優秀校として表彰され、3月19日、CG-ARTS協会の小澤様から、情報メディア学科科長佐藤教授が、団体賞と優秀校の授与を受けました。また、個人賞「CG-ARTS賞」は、情報メディア学科3年小木嘉原さんが受賞しました。



大学院生と学部生が情報処理学会全国大会で学生奨励賞を受賞

3月に開催された第81回情報処理学会全国大会において、大学院情報工学専攻1年の滝本将司さんと情報工学科4年の柴本恵理子さんが学生奨励賞を受賞しました。

<発表題目>

滝本さん:継続的打鍵情報を用いたサーバ操作中のなりすまし検出

柴本さん:観光地写真を対象とした写真撮影行動に基づく嗜好抽出手法の検討

滝本さんの研究は情報セキュリティの向上に役立つ技術であり、提案手法の評価を実験により段階的に行っていることが評価されました。柴本さんの研究は、AI技術を活用した写真分類とユーザの嗜好抽出を用いた観光地推薦に関する提案であり、実験データの設定、評価方法が適切であったことが評価されました。現在は2名とも進級、進学し、大学院情報工学専攻にて研究の進展に日々努力しています。



電気電子工学専攻の大学院生が電気情報通信学会エレクトロニクスソサイティ優秀学生修了表彰を受けました

電気電子工学専攻の大学院生(2018年度修了)の内堀模太さん(中津原研究室出身)が、電気情報通信学会エレクトロニクスソサイティ優秀学生修了表彰を受けました。

同表彰は、エレクトロニクスソサイティへの貢献を認められる大学専攻もしくは専攻に相当する部門に所属し、且つ当該年度に大学院修士課程を優秀な成績で修了し、将来エレクトロニクス分野への貢献が期待される学生を選定して表彰されるものです。

表彰について内堀さんは「この度は優秀学生修了表彰を受けることができ、大変光栄に思います。熱心にご指導くださった指導教員の中津原先生をはじめとして、研究に携わった方々に深く感謝いたします。これからも今回の表彰に恥じぬよう、より一層励んでいきたいです。」と喜びのコメントを寄せています。



特別専攻の学生が国際ワークショップで受賞

昨年12月、本学で開催された「国際ワークショップSISA2018」において、ICT特別専攻に所属する情報工学科4年の名古屋真実さん(2018年度卒業)が「SISA Excellent Student Paper Award」を受賞しました。論文タイトルは「A Simple Depth-Key-Based Image Composition Considering Object Movement in Depth Direction」。受賞にあたり名古屋さんは「12月14日に神奈川工科大学で行われたSISA2018のポスターセッションに参加しました。前日の食事会では、賞をいただきました。しかし受賞スピーチで英語がスラスラ出ず、自分の英語力に愕然としました。話す英語も身につけねばならないと思いました。中国からの参加者の中には日本語もできる方もいて、ただただ感心するばかりでした。」とコメントしています。



『中部謙次郎賞』『大岐良一賞』『石原健男賞』『加賀信男賞』表彰

本学大学院博士前期課程に在籍する大学院生を対象とする奨学金制度である『中部謙次郎賞』『大岐良一賞』『石原健男賞』『加賀信男賞』の授与式が5月28日に学長室で行われました。



本賞は、中部謙次郎氏、大岐良一先生、石原健男先生、加賀信男先生の四氏の生前の業績と教育奨励に対する強い思いを末永く顕彰するため、毎年、中部謙一郎理事長が個人の資金を提供し、継続している奨学金制度です。

授与式では小宮学長から、成績および人物ともに優秀な学生に奨学金が授与されました。

<2019年度受賞者>

- 『中部謙次郎賞』受賞者 伊藤 航平さん(電気電子工学専攻)
- 『大岐良一賞』受賞者 右田 恵さん(応用化学・バイオサイエンス専攻)
- 『石原健男賞』受賞者 田中 優介さん(機械システム工学専攻)
- 『加賀信男賞』受賞者 門倉 丈さん(情報工学専攻)

機械システム工学専攻の大学院生が自動車技術会関東支部「学生自動車研究会」「支部学生活動功労賞」を受賞

大学院工学研究科機械システム工学専攻博士前期課程2年の高須彬廣さん(山門・狩野研究室所属)が、3月6日の公益財団法人自動車技術会関東支部学術研究講演会において「支部学生活動功労賞」を受賞しました。

本賞は関東支部学生自動車研究会における貢献が顕著な学生会員に対し、支部長より毎年2名程度の学生会員が表彰されるものです。高須さんは、学生自動車研究会における会計、学生フォーミュラ大会スタッフ、講演・見学会の企画運営など多方面での活動が評価され、今回の受賞につながりました。



2018年度卒業生が日本音響学会の学生優秀発表賞を受賞

3月6日、電気通信大学で行われた音響学会において情報メディア学科4年の岸田陸空さん(2018年度卒業)が、日本音響学会の学生優秀発表賞を受賞しました。岸田さんは、上田麻理准教授の指導のもとで行ったスポーツ音響に関する研究を2018年9月に大分大学で開催された音響学会で発表し、その成果が認められたものです。



新井奨学金授与式を行いました

6月21日、2019年度新井奨学金授与式が行われ、小宮学長より奨学金が授与されました。同奨学金は、故新井清之助名誉教授から奨学の目的で贈られた寄付金を、本学学生(学部3・4年生対象)の学業・人物ともに優れた学生に給費されます。



<2019年度 新井奨学金授与者>

- <工学部>
- 機械工学科 安田 悠人 さん
- 電気電子情報工学科 田村 亮太 さん
- 応用化学科 北村 涼 さん
- 臨床工学科 田代 智探 さん
- <情報学部>
- 情報工学科 大沼 稜 さん
- 情報ネットワーク・コミュニケーション学科 石岡 朋紘 さん
- 情報メディア学科 栗城 雄一 さん
- <創造工学部>
- 自動車システム開発工学科 藤原 諄紀 さん
- ロボット・メカトロニクス学科 高野 大河 さん
- ホームエレクトロニクス開発学科 鬘 理子 さん
- <応用バイオ科学部>
- 応用バイオ科学科 小川 彩可 さん
- 栄養生命科学科 長谷川 広樹 さん
- <看護学部>
- 看護学科 天野 李音 さん

「KAIT190号」(2019年3月21日発行)において、次の誤りがございました。謹んでお詫び申し上げ、ここに訂正いたします。
平成30年度卒業生の各種表彰「松川サク工業賞」表彰者
・(誤)佐々木 朋華(応用バイオ科学科)
・(正)佐々木 朋華(栄養生命科学科)



目指すは地域の方に応援されるサッカー部 気づき、考え、行動することで、次のステージへ

神奈川県大学サッカーリーグ・春季リーグ戦は、昨年より順位を3つあげた2位で終わることができました。実力をアップしている現在のチームですが、活動の前提には文武両道があります。より良い形で学業とサッカーを両立させるために、練習時間の調整に試行錯誤し、現在実施している朝練習だけのスタイルにたどり着きました。

彼らを指導する上で、今、私が一番大切にしていることは「気づき」です。気づき、考えることで、行動が変わり、次の段階に繋がっていきます。たとえば「この選手はどのようなプレーをしたいのか」に気づき考えることで、自分がどう動けばいいかが判ります。試合に出ている選手は、試合に出られないメンバーの思いに気づき活躍することで、仲間との関係が変わるでしょう。大学内外の清掃活動をはじめ、地域の小学生からシニアまで様々なサッカー大会の運営に関わることで、より多くのことに気づいてくれたらと思っています。

今後の目標は、1人でも多くの地域の皆様に本学のグラウンドで応援していただける部にすることです。そのためには、サッカーの技術的なレベルアップはもちろん、「人として礼儀正しく謙虚であること」

も不可欠です。また、部活動は施設や設備を整えてもらうことで活動が成り立っているの、大学の評価をアップさせていく責任もあります。サッカー部の活動を通して、地域の方に「この大学は良い学生が多いね」と言われるようになることで、本学に貢献したいと考えています。



神奈川工科大学 学生支援本部 学生課
サッカー部監督
齋藤 雄二郎



守備の強化と粘り強さで、関東リーグへの参入戦を目指す!

主将 泉 英二 さん(情報学部 情報メディア学科4年)

プレイヤー31名とマネージャー1名の合計32名で活動しています。今年のチームを一言で言うなら「最後まであきらめないチーム」です。今年はチームとして守備を強化することで失点を防ぎ、且つ、逆転につなげています。また、勉強面など普段の生活も「しっかりやる」ということを大切にしてきました。それが春季リーグ戦2位という結果につながったことも嬉しく思っています。

練習は、基本的に週6回。月曜から金曜まで朝7:30から9:00まで。午後の練習がないので時間を自分なりに管理

することで勉強の計画も立てやすく、文武両道ができています。また、同じ学科の先輩から授業のことを聞いていたので、部活のつながりのありがたさを実感しています。

今後は、夏の間チームをさらに強化して、秋季リーグ戦でも2位以上をキープし、関東大学サッカー・2部リーグに上がるための「参入戦」を目指します。秋季リーグ戦の最後まで主将を続けて参入戦までしっかり取り組み、後輩にバトンを渡します。



目指すはプロ! 秋季リーグ戦・参入戦で結果を出します。

副主将 田島 雅大 さん(情報学部 情報工学科4年)

勝てる試合ができるようになり、大学でサッカーを続けてきて1番嬉しい年になっています。今後は、周囲から応援されるチームになり「試合を見て楽しかった」と言われるようになります。そのためには「頑張る」というのが絶対条件です。秋季リーグ戦でも結果を残し、関東大学サッカー・2部リーグへの参入戦で活躍をして、プロを目指します!



Office Information

オフィスインフォメーション

経営管理本部

総務課

理事・評議員就退任(含重任)について

評議員退任:3名(2019年3月31日付け)

井上 哲理, 清瀬 千佳子, 吉森 進

理事就任:2名(任期:2019年4月1日~2021年3月31日 2年間:前任者の残任期間)

井上 哲理, 斎藤 貴

評議員就任:4名(任期:2019年4月1日~2022年3月31日3年間)

佐藤 尚 (選任区分:法人職員)
栗原 誠 (選任区分:法人職員)
秋野 裕 (選任区分:卒業生)
和田 孝夫 (選任区分:学識経験者)

評議員重任:9名(任期:2019年4月1日~2022年3月31日3年間)

鈴木 隆 (選任区分:法人職員)
中山 裕之 (選任区分:卒業生)
中部 謙一郎 (選任区分:学識経験者)
尾崎 亮典 (選任区分:学識経験者)
中込 寛 (選任区分:学識経験者)
青山 侑 (選任区分:学識経験者)
栗林 直幸 (選任区分:学識経験者)
前島 一夫 (選任区分:学識経験者)
松下 亮 (選任区分:学識経験者)

理事重任:1名(任期:2019年5月1日~2023年4月30日4年間)

尾崎 亮典

理事・評議員退任:1名(2019年6月30日付け)

石上 純男

評議員就任:1名(任期:2019年7月1日~2021年6月30日 2年間:前任者の残任期間)

保坂 精一 (選任区分:学識経験者)

理事(選任区分変更:理事会選任理事から評議員会選任理事へ選任換え)

(任期:2019年7月1日~2023年6月30日 4年間) 保坂 精一

教職員の人事発令

2019年3月31日付け

【教育職員定年退職】

工学部臨床工学科 教授 磯村 恒
情報学部情報メディア学科 教授 平野 照比古
創造工学部ロボット・メカトロニクス学科 教授 小川 喜道
応用バイオ科学部応用バイオ科学科 教授 鳴海 明
応用バイオ科学部栄養生命科学科 教授 佐々木 一
情報学部情報工学科 准教授 西尾 公伸
情報学部情報メディア学科 准教授 徳弘 一路
情報学部情報メディア学科 助教 佐々木 正孝

【事務職員定年退職】

学生支援本部教務課 相田 聡巳

【教育職員自己都合退職】

看護学部看護学科 教授 難波 貴代

【任期制教員自己都合退職】

看護学部看護学科 任期制講師 川島 雅子
看護学部看護学科 任期制講師 畠山 玲子
看護学部看護学科 任期制講師 坂東 美知代

【任期制助手自己都合退職】

看護学部看護学科 任期制助手 桑原 さやか
看護学部看護学科 任期制助手 中林 誠
看護学部看護学科 任期制助手 佐口 清美

【事務職員早期退職】

経営管理本部企画入学課 専任課長 貝瀬 互

2019年4月1日付け

【教育職員新規採用】

工学部臨床工学科 教授 河口 進一
看護学部看護学科 教授 入江 慎治
看護学部看護学科 教授 前山 直美
応用バイオ科学部栄養生命科学科 准教授 三宅 理江子

【特任教員新規採用】

工学部臨床工学科 特任教授 磯村 恒
看護学部看護学科 特任教授 兎澤 恵子

【任期制教員新規採用】

看護学部看護学科 任期制助教 佐口 清美
看護学部看護学科 任期制助教 坂田 徳生
教育開発センター 専門教育講師 村上 依子
教育開発センター 専門教育講師 石川 敢也
教育開発センター 専門教育講師 井藤 雄一
教育開発センター 基礎教育講師 門田 英子
教育開発センター 基礎教育講師 宍戸 章子

【任期制助手新規採用】

看護学部看護学科 任期制助手 生井 葉子

看護学部看護学科 任期制助手 前澤 尚子

【任期制教員の期間の定めのない雇用への変更】

看護学部看護学科 准教授 中島 正世

【教育職員昇任】

<准教授から教授への昇任>

工学部機械工学科 有川 敬輔

情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科 岡本 剛

<任期制助教から任期制准教授への昇任>

看護学部看護学科 金子 直美

【教育職員兼務】

基礎・教養教育センター 教授兼務 石綿 良三

【嘱託職員新規採用】

経営管理本部企画入学課 程島 宏美

学生支援本部早期学生支援室 鈴木 正一

教育開発センター支援室 折笠 初雄

教育開発センター支援室 久保田 啓一

看護生涯学習センター 井上 喜恵子

看護生涯学習センター 小口 明美

工学教育研究推進機構 機構支援室 プロジェクト事務管理者

中澤 文彦

工学教育研究推進機構 機構支援室 地域連携統括コーディネータ

小川 喜道

工学教育研究推進機構 機構支援室 工作工場

井畑 禎弘

工学教育研究推進機構 技術支援室 KAIT工房

上原 勉

工学教育研究推進機構 技術支援室 KAIT工房

斉藤 智亮

【出向者受入れ】

工学教育研究推進機構 機構支援室

創造工学部 自動車システム開発工学科配属 長瀬 功児

2019年5月1日付け

【任期制教員新規採用】

看護学部看護学科 任期制講師 日野 徳子

2019年5月10日付け

【教育職員退職】

工学部応用化学科 准教授 本田 数博

2019年5月31日付け

【任期制助手自己都合退職】

応用バイオ科学部栄養生命科学科 杉本 悠貴

管財課

エコ活動の報告

本学の「ECO推進チームみどり」の学生達が下記の活動を行いました。

5月:30名が5チームに分かれて大学周辺ゴミ拾い実施。学生サービス講義棟の西面4階吹き抜けガラス部分に「遮光カーテン」設置。

神奈川県央相模川サミット合同クリーンキャンペーンに32名が参加し、相模川河川敷清掃活動を実施。

6月:大学内2か所にグリーンカーテン育成用ネットとプランターを設置。

7月:中央緑地公園石畳で打ち水実施。

9月:尾瀬国立公園内で外来植物駆除活動を実施予定。



相模川サミット合同クリーンキャンペーンへ参加

学生支援本部

教務課

今後の主な予定

<前期授業終了日>7月30日(火)

<補講日>7月31日(水)、8月1日(木)

<前定期試験期間>8月2日(金)~8月7日(水)*日曜除く

<前期追試期間>9月2日(月)~9月4日(水)

<夏期休業期間>8月8日(水)~9月19日(木)

<後期ガイダンス及び成績表配付>9月20日(金)

<後期授業開始>9月21日(土)

教職教育センター

令和2年度公立学校教員採用試験(令和元年度実施)の受験に向けて

○7月中:各都道府県で採用試験の実施 →1次合格発表(神奈川は7月26日(金))

○8月3日(土)・4日(日)*2日間:2次試験対策

1次試験合格者に対して、2次試験の受験に向けて、模擬授業や面接試験等人物試験の対策を重点的に実施します。

令和2年度実施の受験に向けた対策をスタートします

○9月4日(水)~9月13日(金)*8日間:夏期集中講座の実施(講師:東京アカデミーのスタッフ)

大手予備校の講師から受験に必要な基礎を徹底的に学び、本格的な受験対策を開始します。

○9月13日(金):神奈川県の本年度実施問題による模試
神奈川県が本年度実施した問題に挑戦し、現段階における各自の実力測定と今後の目標を定めるための参考資料にします。

○9月30日(月)~12月20日(金)*約3か月間:「後期対策講座」の実施

前期同様に添削指導をメインとした受験対策(一般教養・教職教養・専門教科・論作文等)をします。

学生課

「父母説明会・個別相談会(本学)」開催について

2019年度父母説明会・個別相談会は、以下の日程で開催します。本学の支援体制の説明やキャンパスツアー、およびクラス担任との個別相談の時間も設けております。4月および5月に開催した新入生父母説明会・地区別父母説明会に参加できなかった皆様は是非、この機会をご利用いただきご参加ください。

なお、案内状の発送は8月中旬を予定しています。

開催日:9月21日(土)

場所:神奈川工科大学

キャリア就職課

インターンシップ推進室からのお知らせ

インターンシップ推進室では、主に単位認定インターンシップを推進し、課題解決型、就業体験型を含め現在160社以上の受入れ情報を公開しております。

夏休みに数社のインターンシップを検討している方は、ぜひ3日間以上のインターンシップを1社加えてほしいと思います。1dayでは体験しきれない様々なカリキュラムがあり、自身がイメージしていたことが実際どう

だったのかをしっかりと理解することができます。また、課題解決型インターンシップで、チームで1つの課題に取り組み、チームとしての答えを見つけ出すプロジェクト型インターンシップに参加するのもお勧めです。7月後半に入り、これからインターンシップに参加したいと考えている学生さんにはぜひ、インターンシップ推進室へ来てほしいと思います。一緒に考え、実りあるインターンシップへの参加を支援いたします。

災害ケア
研究に関する
シンポジウム

「防災無線をはじめとするICTを用いた厚木市の防災システムのあり方」を開催

3月28日、情報学部棟メディアホールにて、神奈川工科大学地域連携災害ケア研究センターと情報学部が主催、あつぎ市大学連携プラットフォーム共催による、「災害ケア研究に関するシンポジウム」が開催されました。

本シンポジウムの趣旨は、本学地域連携災害ケア研究センターと情報学部が企画運営をし、厚木市との共同研究を含む「災害ケアに関する」検討を行うというものです。各地で地震や台風などによる大規模災害が続いている昨今、「災害ケア」は関心が高いテーマだけに、当日は一般の方を含む約80名が参加され熱心に聴講されました。

最初に「厚木市の災害関連予備知識」として、厚木市市長室危機管理課 厚木市セーフコミュニティ防災対策委員会より「厚木市の防災システムの現状と課題」が紹介されました。続いて、本看護学部看護学科田村教授より、本学を指定避難場所としている荻野地区A自治会の住民の方を対象にしたアンケート「災害時対策と避難所に関する意識調査」の結果報告が行われました。同アンケート結果は、災害時の避難所への要望や不安など、今後の検討すべき課題がわかる興味深い内容といえます。

また、シンポジウムでは「厚木市の現状を踏まえた災害支援システムの検討」として、本学の4名の教員が登壇し、災害時に活用できるICTなどの技術の今後の可能性や課題について発表しました。

最後に、本シンポジウムの総括として、リスク危機マネジメントを専門とする松蔭大学 宮林正恭教授より「防災におけるニーズを捉えて、引き続き研究をお願いしたい」などのお話をいただき閉幕しました。

本学が持つ様々な分野の知識や技術などを、地域の皆様にとのよう反映していくのか。今後も、本シンポジウムでは、防災・減災・災害ケア、避難時ケアなどを取り扱いつつ、市民・行政・企業・研究機関が丸となって、少しでも備えのある地域に発展することをめざしてまいります。開催にあたりご協力いただいた本学内外の皆様には深く感謝いたします。

主催：神奈川工科大学 地域連携災害ケア研究センター・情報学部
共催：あつぎ市大学連携プラットフォーム
協力：厚木市・厚木セーフコミュニティ防災対策委員会



- | | |
|------|--|
| 発表内容 | 1. 災害等非常時屋外拡声システムの現状と音響的課題
(情報メディア学科 上田 麻理 准教授) |
| | 2. 大災害時の円滑な情報収集を可能にするネットワーク技術
(情報ネットワーク・コミュニケーション学科 塩川 茂樹 教授) |
| | 3. 防災分野におけるWebの可能性
(情報工学科 田中 哲雄 教授) |
| | 4. 防災拠点としての人力発電システムの開発・運用とその課題
(情報工学科 田中 博 教授) |

中学・高校・高専生対象

ITに関する「夢」を語る 「IT夢コン」を今年も開催します!

IT夢コンテスト(IT夢コン)は、全国の中学生・高校生・高専生(3年生以下)を対象に、IT(情報技術)で実現できる未来の社会や新たなサービスなどに関する「夢」を語ってもらうコンテストです。本コンテストを通して、中学生・高校生・高専生のITに対する理解や興味を高めるとともに、創造力・問題発見能力・コミュニケーション力などの能力開発の支援を目的とし、2011年から本学主催で開催し、9回目を迎えます。今年は、全国から49校、211作品の応募がありました。

最終審査会では、書類審査によって選出された30作品が、ポスター発表による一次審査を受け、そこから選出された8作品が、質疑応答も含めたプレゼンテーション形式の最終審査に挑みます。一次審査前のポスター発表では、参加した中高生同士の投票によって決定する「ピア賞」も予定しています。最終審査の審査員には、本学教員と学生に加えて、神奈川県教育委員会の先生、情報技術に関する最先端企業の研究所員、本学の包括的連携協力の協力大学の久留米工業大学の教授、そして、タレントの蒼あんな・れいなさんを迎えて実施します。久留米工業大学とは、インターネットを通じた遠隔審査員を予定しており、審査員は久留米大学にいながら本学で行われる最終審査を聴き、審査を行います。最終審査後には参加者懇談会を行い、普段はあまり関わることのない学校の先生や生徒の皆様の交流を広げていただこうと考えています。

今年の最終審査会は、7月27日に本学で開催いたします。

名誉教授記授与式を挙行

6月26日、情報学部棟貴賓室において、名誉教授記授与式が執り行われました。小宮一三学長より、以下の4名の方々に名誉教授の称号が授与され、永年に亘り本学の教育・研究の分野において、多大な貢献をされたことに對し感謝の言葉が贈られました。



- <名誉教授記 授与者>
- | | |
|--------|------------------------------|
| 平野 照比古 | 名誉教授(元情報学部情報メディア学科教授) |
| 鳴海 明 | 名誉教授(元応用バイオ科学部応用バイオ科学科教授) |
| 小川 喜道 | 名誉教授(元創造工学部ロボット・メカトロニクス学科教授) |
| 磯村 恒 | 名誉教授(元工学部臨床工学科教授) |

ホームカミングデーを開催します。

本年度も11月2日(幾徳祭初日)に、ホームカミングデーを開催します。ご家族、ご友人、先輩、後輩など、お誘いあわせのうえ、お越しください。同窓生の皆さまとの再会を教職員一同、お待ちしております。

